

2017 年度事業計画

1. 総務委員会

総務委員会は、理事会の下で各委員会と協力して学会活動を円滑に進めて行きます。今年度の主要な活動計画は以下の通りです。

1) 財政

収入の維持・増加のために、会員増強活動を行います。また、事業内容の見直しも含め、財政の健全化を実施します。

2) 会員増強

関連委員会との協力の下に会員増強を進めます。春季、秋季の信頼性シンポジウム、フォーラム、見学会等の活動を活発に行い、本学会の存在を広く認知させます。

3) フォーラムおよび見学会の実施

会員のニーズに沿う、かつ新規会員の獲得に貢献できるような本部主催のフォーラムおよび見学会を実施します。

4) 関係学会等との協力

新規会員の獲得、会員の発表および情報収集の場の提供のため、関係学会等との協力を行います。

経営工学関連学会協議会 (FMES) 第 33 回シンポジウムが、2017 年度に開催される予定です。本学会は、開催案内広報や参加者確保の面で支援いたします。

安全工学シンポジウム 2017、第 8 回横幹連合コンファレンスおよび電子情報通信学会の信頼性研究会等の開催に、例年通り積極的に協力します。

5) 国際協力

2017 年 10 月にカタール・ドーハにて開催の、7th International Conference on Quality, Reliability, Risk, Maintenance, and Safety Engineering (QR2MSE 2017) に協賛いたします。本学会からは副会長の土肥正氏が General Co-Chair、鈴木和幸氏、山本久志氏、および Won Young Yun 氏が International Advisory Committee Members、早川有氏、肖霄氏、および山本久志氏が Program Committee Members として参画し、国際会議の盛会に向けて支援いたします。

2. 広報委員会

1) 外部連携による広報機能向上

学会ホームページの機能向上（セキュリティー、情報検索）を実現した上で、関連学会活動や業界団体などの外部機関への学会イベント情報提供などで連携して、当学会活動の更なる活性化を目指します。

2) 研究会活動支援

本学会活動の主幹でもあります各研究会活動において、活動の PR や成果発表、また組織運営に必要なツールの導入検討を進めます。

3. 編集委員会

1) 編集委員会で検討した 2017 年度の年間計画（案）を下表に示します。

発行年	発行月	種類	内容・テーマ
2017 年	4 月号	ニュース	信頼性ニュース
	5 月号	展望	IoT 時代の劣化診断と保全技術
	6 月号	ニュース	信頼性ニュース
	7 月号	展望	交通システムの安全性・信頼性（仮）
	8 月号	ニュース	信頼性ニュース
	9 月号	展望	LSI の品質を確保すべくどのようにテストするか（仮）
	10 月号	ニュース	信頼性ニュース
	11 月号	展望	安全性・信頼性のためのヒューマンファクター（仮）
	12 月号	ニュース	信頼性ニュース
2018 年	1 月号	展望	小中高等学校における安全教育（仮）
	2 月号	ニュース	信頼性ニュース
	3 月号	展望	検討中

2) 電子化を受け、記事へのアクセス状況が編集委員会において平易に分かる仕組みを模索したいと考えております。

3) 「基礎講座（仮称）、の連載開始、またコラム欄の活用などを引き続き検討して参ります。これらを含め、引き続き学会誌を専門外の会員にも判り易い記述内容で編集することを目指し、平易な記述、見やすい記載、話題となるテーマ選択など、内容をこれまで以上に充実させることで学会員の皆様へのサービスの向上を図ります。

4. 論文審査委員会

引き続き、掲載論文数の増加と、投稿論文審査のさらなるスピード化と質の向上を目指します。

1) 掲載論文数の増加を実現し、信頼性学会誌からより多くの情報発信を目指します。

2017 年度は 8 編以上の論文投稿、5 編以上の論文掲載を目標といたします。

2) 研究分野の拡大に対応して、より多くの論文が投稿されるように引き続き検討します。

3) 上記目標の達成のため、ショートノート、ケーススタディを活用した情報発信体制の改善、論文審査体制の見直しを実施し、必要に応じて投稿規定等の改正を行います。

4) 投稿論文作成と審査の質の向上のため、論文作成に役立つ情報や、審査の心得に関する情報の準備、発信を行います。

5) 高木賞候補論文の選考を行います。

5. シンポジウム実行委員会

第 25 回春季信頼性シンポジウム開催準備と運営のために委員会を 2 回，第 30 回秋季信頼性シンポジウム開催準備と運営のために委員会を 2 回開催し，プログラムの編成等を行う予定です。

また，シンポジウム当日は，運営及びセッションの司会を務めます。

1) 第 25 回春季信頼性シンポジウム

日時：2017 年 5 月 31 日（水）

場所：一般財団法人日本科学技術連盟 本部

2) 第 30 回秋季信頼性シンポジウム

日時：2017 年 11 月 27 日（月）東高円寺ビル

場所：一般財団法人日本科学技術連盟

発表論文の募集要項等は例年に準じます。詳細は後日決定次第，お知らせします。

6. 研究会運営委員会

引き続き，研究会活動の活性化を進めます。そのために，学会ホームページや学会誌などで各研究会の開催案内や活動状況を紹介します。また，新たな研究会の立ち上げを呼びかけます。合同研究会を開催するなどウェブ会議システムの活用を促進します。成果の発信方法として，春季・秋季信頼性シンポジウムや信頼性フォーラム発表とともに，セミナー開催や書籍出版などの検討を行い，学会の基盤強化に貢献していきます。

各研究会の活動計画を以下に記します。

1) IEC ディペンダビリティ規格研究会（主査：山内慎二氏）

（1）IEC 60300-3-12(Ed.2):Integrated logistic support (ILS) の研究（継続）

① 標記規格の要約を実施し，研究発表の基礎資料を作成します（完了予定：平成 29 年 9 月）。

② 関連規格 IEC 60300-3-14 及び IEC 60300-3-16 の調査を並行して進めます。

（2）IEC 62508, Guidance on human aspects of dependability の審議を進めます。

（3）JIS 原案作成委員会及び IEC/TC56 信頼性専門委員会への協力を継続します。

（4）研究結果の発表

H29 年度(秋)Symposium に発表を予定：仮題「国際規格 IEC 60300-3-12 (ILS) について」

（5）研究会の会合は月 1 回（18:30～21:00），年度合計 12 回を予定しています。

（6）当研究会の実働会員の増強に努めます。

2) 情報システム信頼性研究会（主査：松尾谷徹氏）

年間 2 回の開催（上期，下期）を予定しています。日程の詳細は未定です。

内容については，「情報システムのサービス信頼性とそれを支える AI 技術」をテーマに

現代社会における信頼性の価値と、複雑化した情報システム保守を支える技術について進めていきます。主なテーマ案は以下の通りです。

- 債権回収における催促と回収のモデル、その実績評価
- 情報システム開発・保守プロセスと AI 技術
- クリエイティブ人材育成の信頼性
- 利用者数を考慮した情報システムサービスの信頼性

3) 信頼性試験研究会（主査：松岡敏成氏）

（1）定期研究会

会場：日科技連大阪事務所研修室 他

期日：偶数月の第 2 金曜日を原則とします。

（2017 年 4 月度は 3 月 31 日、日科技連大阪事務所研修室にて開催済）

（2）研究テーマ

主たるテーマは「効率的・効果的な信頼性試験の追究」（数と時間の壁への挑戦）

<具体的な取組内容>

- ① 効果的かつ効率的な信頼性評価計画の立案
- ② 信頼性評価のためのデータ解析手法の提案と応用
- ③ 信頼性評価の実務上の問題・課題の解決

<成果報告>

- ① 当研究会で討議された事案について、2017 年度の春季シンポジウム、秋季シンポジウムにて報告します。
- ② 関西支部主催信頼性フォーラムにて、発表された事案の横通しを図ります。
- ③ 信頼性試験ガイドラインの改訂をします。

4) 要素技術安全研究会（主査：川島興氏）

（1）活動内容

- ① 2016 年度までの研究成果をふまえ、各産業分野に展開される機能安全規格を分析することで、機能安全規格全体の動向及び課題を把握します。

・機能安全を意図した IEC、ISO 規格、法令等の状況及びその要求事項の調査

- ② 機能安全に限定せず、安全に関するトピックスを題材としたディスカッションを行い知見を広めます。

（2）研究会開催予定は 5 回（5 月、7 月、10 月、12 月、2 月）です。

5) 故障物性研究会（主査：土屋英晴氏）

前年度と同様、例会を年間 6 回（原則、偶数月金曜日、13 時～17 時）開催する予定です。会員と研究会の成長が継続的に進むよう研究会の方向付けを適切に行い、更に大きな成果につなげることを目指します。そのために、特に下記を重点的に実施します。

- ① 会員の意思を尊重して、現場で起きている故障や製品事故の中から時流に相応しい研究テーマを創出し活動します。
- ② 実行委員会や分科会の活動を継続強化し、研究を深掘りします。
- ③ 「日本信頼性学会ホームページ：故障物性研究会専用サイト」の運用レベルを高め、資料の共有化と活用を促進します。
- ④ 成果の一部を外部に公開し、広報するとともに新たな情報収集や会員募集に努めます。具体的には、日本信頼性学会「春季・秋季信頼性シンポジウム」、日科技連「信頼性・保全性シンポジウム」などで発表予定です。また、昨年度に引き続き「信頼性フォーラム」を企画し開催します。体系的にまとめた書籍の発表準備を継続します。

6) LSI 故障解析研究会（主査：二川清氏）

2017 年度は前年度と同様、年 2 回程度、研究会を開催する予定です。

7) Lcc (Life Cycle Costing) 研究会（主査：中島洋行氏）

(1) 研究会

原則として年に 5 回、金曜日の 18:00~20:00 を定例研究会とし、日本科学技術連盟の会議室を利用し開催します。

(2) 活動内容

Lcc 研究会は 2003 年の設立以来、国際規格 IEC 60300-3-3 Life Cycle Costing を基点として、翻訳、解説本の出版、標準化委員会への技術支援、現状調査、その他関連文献調査と翻訳などを進めてきました。2017 年度からはライフサイクルの保守と運用の段階 (Maintenance, Maintenance support and Operation) に重点を置いた調査研究に入ることになります。これまでの Lcc 研究会の調査結果と、日本の産業界の現状をふまえると、ライフサイクル コストに大きな影響を与える保守と運用の段階を重点的に研究する必要があると考えています。基本文献として IEC 60300-3-12 – Dependability Management – Part 3-12 Application Guide – Integrated Logistic Support を用いて翻訳及び内容の検討、現状分析や関連事項の調査研究及び系としての総合的なライフサイクル コストとの相関について検討を進めます。研究対象とするアイテムはシステム、ハード、ソフトすべてを扱います。

なお、ライフサイクル コスティングの導入実績調査と信頼性標準化委員会への参画は従来通り継続いたします。

ライフサイクル コストや保守・運用段階に関係する技術者、管理担当、経営に携わる方々の参加を募ります。

8) 機能の安定性と安全研究会（主査：柴田義文氏）

(1) 活動 本質安全の検討

- ・信頼性工学と品質工学の立場から、安全を検討する。

- ・信頼性工学と品質工学の視点を融合させて安全を研究し、設計への提案をする。
- ・ Safety-2.0 の問題点を討議し、本質安全のあるべき姿を研究する。
- ・危険源を除去した原理的本質安全の事例を集める
- ・昨年に引き続き研究会合宿を開催する。
- ・昨年に引き続き一般公開 1 日を設置

(2) 勉強会

- ・ TRIZ による原理的本質安全の検討
 - ① 開催 年 6 回以上
 - ② 研究発表 日本信頼性学会をはじめとした他学会への発表 6 件以上
 - ③ 啓蒙 一般公開の開催、本の出版の検討

7. 表彰委員会

本年度も表彰委員会を開催し、以下を審議します。

- 1) 2016 年 1 月号から 2017 年 12 月号の間に学会誌「信頼性」に掲載された論文の中から、高木賞を選定するための審議を実施します。
- 2) 第 25 回春季信頼性シンポジウム (5 月 31 日) と第 30 回秋季信頼性シンポジウム (11 月 27 日) における発表論文の中から、優秀賞 2 件と若手奨励賞 2 名を選定するための審議を行います。
- 3) 2017 年 1 月号から 2017 年 12 月号の間に「信頼性」に掲載された論文以外の記事の中から、優秀記事コラム賞を選定するための審議を実施します。

8. 関西支部

信頼性に関する現状および将来の展望を探究することを目的とし、講演会 (3 回程度) および見学会 (3 回程度)、さらにフォーラム (1 回) と研究発表会 (電子情報通信学会 信頼性研究会との共催) を行う予定です。特に、フォーラムに関しては講演会を含め会場参加者とのディスカッションが活発に行われるように努めます。

なお、参加人数の目標として講演会 30 名程度、見学会 20 名程度とします。また、研究発表会の発表者も信頼性学会会員が増えるように努めます。

9. 本年度の主な事業の予定 (再掲)

- 1) 第 39 回年次総会 2017 年 5 月 31 日 (水)
- 2) 第 25 回春季信頼性シンポジウム 2017 年 5 月 31 日 (水)
- 3) 第 30 回秋季信頼性シンポジウム 2017 年 11 月 27 日 (月)
- 4) フォーラム 2 回, 見学会 2 回
- 5) 各研究会
- 6) 関西支部行事

開催日や内容については、学会誌・信頼性ニュース及びホームページに掲載します。